

11月の実験

10月の実験の結果を踏まえ、今回は1400gの生ごみを700gずつ2箇所の実験をおこなった。実験内容は、廃油を0gと300g投入し分解スピードと土壌温度を観察した。水分は廃油0gの方に300ml、廃油300gの方に100ml投入した。

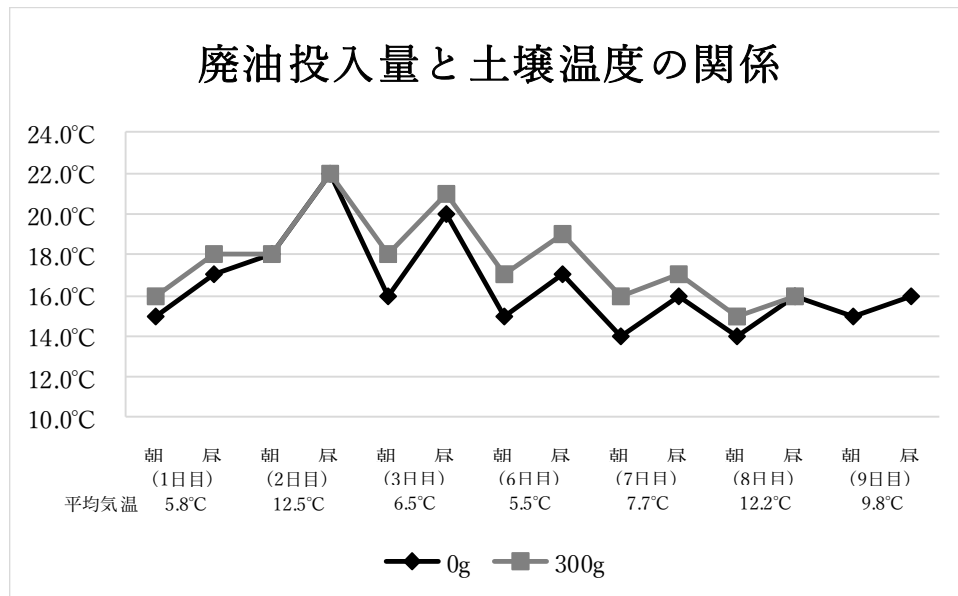
【投入したもの】

お茶葉、ご飯、麺類、柑橘系の皮

(2箇所の生ごみが均等になるようによくかき混ぜてから投入し、柑橘系の皮も半分ずつ分けた)

【結果】

油を投入した生ごみは8日間で分解し、油を投入しなかった生ごみは9日間で分解した。今回はあまり土壌温度に差は出ず、1°Cから2°C高い結果となった。



【考察】

分解スピードは一日早い結果となり、生ごみ700gが推奨の500gより200g多かったため油による分解能力の向上が顕著になったと思われる。また、土壌温度があまり変わらなかったことについては、生ごみの量が少ない方が水分や空気を定期的に取り込むことが出来るため、細菌が活性化し土壌温度が上がりやすくなる可能性があると思われる。今後も引き続き実験を続けていく。